

心のかけら買います

作 藤田 久雄

登場人物

風間 真……子供の頃から強くなるためにレスリングを習っていた。ある日突然、父親が倒れて病院に運ばれる。そのため金銭的な問題で通っていた大学を辞めるか悩まされる。

風間 英雄……真を強い子に育てたく体を張ってレスリングを教えていた。くも膜下出血で倒れてしまう。

風間 満智子……夫が倒れたためフルタイムで働きながら看病をし、同時に親の介護もしているため疲労困憊の日々を送る……。

少女（未来）……よれよれのパジャマを着て汚い人形を大事に持っている。

ギャンブル依存症の男（寿来）……元は会社員だったが社畜から抜け出すために、株やFXからギャンブルにのめり込む。身ごもった奥さんとは離婚し子供の顔も知らない……。

風俗嬢（真由未）……女手一つで娘を育てながら水商売で働いている。

大道芸人……芸の道を信じて今はピエロをしているが、かつては役者もしていた。

椎名 奏……真の同級生。いつからかプロのピアニストになりたいと思う様になる。

小川 仁……真の同級生。明日香の事が好きで周りを巻き込む癖がある。

久保 明日香……真の同級生。いつもマイペースな感じ。

山田 やまだ 幹生 みきお ・ 真らの先輩。山岳部部长でアウトドアが好きすぎて大学をダブっている。

ギターの男 ・ 高架下の薄暗い路地でギターを手に、人から心のかけらを買っている。心の亡者・・・。

その他

プロローグ

日中の自然豊かな山道。
一行は一息ついている。

山田が双眼鏡を覗いている。

山田 あ、いるいる。

明日香 えなになに？

山田 ほらあそこ。

明日香 リスですか？

山田 リスではないけど、ほら覗いてごらん。(双眼鏡を渡す)

明日香 (覗いて) あ居た、かわいい。ほら奏も見えて見て。

奏 (覗いて) あ本当だ、キレイな色。

山田 あれはキビタキって鳥で囀りがとても心地よくてね、あの美しい色彩と合わせて人気の高い野鳥なんだよ。

奏 へえー。

明日香 山田先輩詳しいんですね。

山田 まあね、お陰で大学はダブっちゃったけどね (笑)

明日香 ねえ先輩、別の鳥も見てみたい。

山田 しっ、ちょっと待って。(聞き耳を立てて双眼鏡を覗きこむ)

息をのむ明日香と奏。

それら一連の様子を恨めしそうに見ている小川。

そして突然大笑いする真。

小川 何だよっお前いきなり、ビックリするだろ。

真 悪い (堪えながら笑う)

山田 ああ折角別の野鳥を見つけたのに、二人が騒ぐから逃げちゃったよ。

明日香 もお何してんのよそこお。

小川 いや俺じゃなくて此奴だよコイツ、真がいきなりバカ笑いするから。

明日香 ちよっとは空気読んでよね、逃げちゃったじゃない鳥。

小川 ごめんなさい。(真に) お前のせいで明日香ちゃんに怒られたらう。

真 (笑う)

小川 笑うとこじゃないっ。

奏
山田
明日香
山田
明日香
山田
（辺りを見回す）鳥みんな逃げちゃったかなあ。
大丈夫、ちょっとビックリしただけだよ。
先輩鳥の気持ちも分かるんですか？
うん、まあ大体ね。
すごい。
凄くなんてないよそんなの、彼らの特性を理解していればね。むしろ俺からしてみれば、人間の方が分からない事だらけだよ。

真が笑う、呆れて距離を置く小川。

奏・明日香
小川
確かに。
ちよつとあいつ何か壊れちゃってて。

真は何かを思い出した様にリュックからコントローラーを取り出す。

明日香
奏
小川
山田
真くんってあんな感じだったっけ？
うん、何だか今日はいつもと違う。
あいつ今朝は元気ないなあと思ったら、急に今はあんな感じになつて。

山田
明日香
奏
（笑う）
今日一日この自然の空気を吸ってれば、彼もそのうち本来の自分を取り戻すよ。
ですね。（笑う）
（笑う）

小川は山田の男前の言葉に嫉妬して。

小川
明日香
山田
明日香ちゃん俺が鳥、見つけてあげるねっ。
え、あうん。
じゃあ俺も。

小川は一人ライバル心を燃やして勢いよく双眼鏡を覗き込む。
山田は澄ました顔で聞き耳を立てている。

小川
山田
小川
山田
小川
山田
あれ、あれえ。こっちか、いやこっちか……。やっぱりさっきの鳥達みんな逃げちゃってるなあこれは。あ居た。
くそっ。

明日香と奏は山田の所へ集まる。
くやしがる小川。
壊れている真。

暗転

一場

高架下の少し開けた場所。

男がケースからギターを出している。

電車の遠ざかって行く音。

男がギターの弦を弾いている。

そこへよれた。パジャマを着た少女が小汚い人形を片手にやってくる。

少女 おじさんギター弾くの？

ギター男 弾くよ。

少女 ちよっと弾いてみて。

ギター男 今はまだ弾けない。

少女 どうして？

ギター男 その時じゃないから。

少女 ふーん、つまんない。

ギター男 お嬢ちゃんはこんな時間に此処で何をしてるんだい？

少女 お嬢ちゃんじゃないもんわたし。

ギター男 あ、ゴメンね。

少女 未来はね、今度からくるみその小学校に行くんだから、もうお姉さんなのよ。

ギター男 そうか、未来はもうお姉さんかあ。

少女 そうお姉さんなの、だから駅までお母さんをお迎えに来たのよ。

ギター男 、未来は、偉いんだねえ。

少女 (喜び) うふふ。

ギター男 それで未来のお母さんは？

少女 まだお仕事みたい。

ギター男 ・・・そうか、お父さんは？

少女 お父さんは、わたしが生まれる前に病気で死んじゃったの。だか

からお母さんはいつも忙しいの。

ギターの男 そうか、ゴメンね辛い事を訊いて。

少女 うん、辛くなつてないわ。わたしにはこの子もいるから、（人形を抱きかかえ頭を撫でる）ねえ。

ギターの男 素敵な人形だね。

少女 そうでしょ、お父さんがわたしにくれたの。だからこの子とは、わたしが赤ちゃんの時からも一緒。ご飯を食べる時も、お布団に入る時も、お風呂に入る時だって一緒なんだから本当よ、お母さんに聞いてもいいんだから（人形に）ねえオトちゃん。

ギターの男 ・・・さあ未来はもう帰った方がいい、オトちゃんをお布団に入れてあげなきゃ。

少女 うん、そうね。

ギターの男 それに夜は一人で出歩かない方がいい、最近日本も物騒だからねえ。（傍白）心を亡くした人に出会わずといけない・・・。

少女 あーあ、ギター聞きたかったなあ。

ギターの男 また今度ね、また今度未来がどうしても聞きたくなった時に聞かせてあげるよ、君だけのためにね。

少女 うん分かった。

向こうから男が独りブツブツと大きな声で文句を言いながら歩いてくる。

男を気にする二人。

ギターの男 未来、こつちへおいで。危ないから一旦その陰に隠れときな。

少女 どうして？

ギターの男 何があるか分からないからね、あの人が行ってしまつてそこで遣り過ごすんだ。いいね。

少女 うん。

少女は陰に身を潜める。

ギャンブル男が現れる。

ギャンブル男 クソっ、あれは絶対インチキだ、ホルコン使つて遠隔操作してるに違いねえ。トーシローじゃあるまいし俺が何も知らねえとでも思つてんのかクソがあ。俺を出し抜いた分、絶対回収してやるからなあ。・・・お前、何見てんだよ？

ギターの男 いや、別に。

ギャンブル男 （ギターを目にして）何か弾いてくれよ、ぱあつと憂さが晴れるような明るい曲をよお、ミュージシャンなんだろう。

ギターの男 今は、まだ弾けない。

ギャンブルの男 何だよケチだな、金か？

ギターの男 . . .

ギャンブルの男 金ならねえよ、今日は全部のまれちまった。あら詐欺だ、普通あれだけ回したらちったあ返ってくるだろうによお、なあ。

ギターの男 (愛想笑い) パチンコ？

ギャンブルの男 あの台は明日だな、明日朝一から打ちやあ間違いない。今日の分、いやここ何日か分一気に取り戻してやる。

ギターの男 明日も行くの？

ギャンブルの男 行くよ。

ギターの男 よっぽど好きなんだね。

ギャンブルの男 好きも何もあるか、俺にとっちゃあ仕事だからねえ。

ギターの男 仕事？ パチンコが？

ギャンブルの男 ああ、週末は馬もやるぜ。(ギターの弾くまねをして) お前さんみたいに趣味でやってる訳じゃねえからなあ。

ギターの男 でもギャンブルが仕事じゃあ不安も尽きないでしょう。

ギャンブルの男 不安？ じゃあ何かい、会社員にでもなれば将来安泰、何の不安も無く安心して幸せに暮らせるって言うのか？

ギターの男 いやそう言う訳じゃあ。

ギャンブルの男 不安を拭い去ってくれるのは会社じゃねえ、金だよ。

ギターの男 . . .

ギャンブルの男 会社なんてもんはよ、上司が示した無理難題、企画を出せばはい却下、飲み席では寝てない我慢、上司にどうやって気に入られるか。それでも初めの何年かは会社人間だとか企業戦士だと思いい込み、身を粉にして働いたよ。そんな社畜の楽しみと言えれば月一回の給料日よ、その月一のためにバカ真面目だった同僚君は(首吊りの真似をして)これよ。

ギターの男 . . . 自殺？

ギャンブルの男 他にも、死にはしないけど気が狂った奴を何人も見たよ俺は。

あんたの周りにも一人くらい居るだろう、抜け殻みたいになっちゃまった奴。(抜け殻のふりをして笑い飛ばす) 定職に就けば幸せか？ そんな事はねえだろう。

ギターの男 それで会社を辞めてパチプロに。

ギャンブルの男 要は月一回だった楽しみを増やせばいい訳だろう。そこで俺が最初に目を付けたのが、毎日取引が行われている株やFXさ。でもこれは俺の性に合わなかったね、パソコンの前に張り付いてひたすら数字とにらめっこ。それこそ気が狂っちゃうね何の面白味もねえ、第一金を扱っている気がしねえ。その点パチ屋はその日に現金が貰える、毎日が給料日って訳さ。

ギターの男 それはいい、パチンコはそんなに金になるんだ。

ギャンブルの男 ああ、まあな。 . . . そりゃあ調子が良くねえ時もあるよ、そう

いう時はお前、馬でも見に行つて気分転換するのよ。パドックであいつらの息づかいを見ているとこちとら血が騒ぐねえ、その火照りで渴いた喉を潤すために、こっちにビールこっちは馬券、そしてそのままゲートインてなわけよ。

ギターの男　で、結果は？

ギャンブル男　だからさつきも言つたらう、良い時もあればそうじゃない時もあるつて。勝ちを約束されたギャンブルなんてあるか？　そんなもんあつたら誰も苦労しねえよ、人生だつてそうだろう保障された幸せなんてあるか？　どうなるか分からない、だからおもしろえんじやねえか。

ギターの男　人生もギャンブルみたいなものつて事ですかね。

ギャンブル男　そう言う事だよ。でもこれが分からねえ奴には分からねえんだよな。人間なんて現金なもんでよ、金がある時は擦り寄つて来て、ない時には蜘蛛の子を散らすかの様に逃げて行きやがる。特に女はそう、口先ではお金より優しさとか何とか言つてくるくせに現実はやつぱり金。金が無いと素っ気ないよ、俺の女もそうだった。

ギターの男　・・・

ギャンブル男　金の切れ目が縁の切れ目（笑い飛ばす）あーあ、金が欲しい。

ギターの男　、そんなに欲しい？　お金。

ギャンブル男　あ？　欲しいねえ、そりゃあ欲しいに決まつてんだらう。逆に欲しくない奴なんているのか？

ギターの男　んー、どうだろう。

ギャンブル男　どうだろうつて、いる訳ねえだろうそんな奴。お前だつて欲しいだろう金、音楽で一発当ててやるうつて思つて弾いてんだらうギター。・・・それとも本当にただの趣味か？　いいねえお坊ちゃんは気楽で。

ギターの男　心のかけらを買つているんだ。

ギャンブル男　は？　心のかけらを買う？

ギターの男　そう、音楽をやりながら人の心を少しだけ分けてもらつているんだ。もちろんタダではない、その人の心に見合つた分だけのお金は支払うよ。

ギャンブル男　ちよつと待てよ、何言つてんだお前。え、要するにお前が金を払うの？

ギターの男　そう、心のかけらと引き換えに。

ギャンブル男　何だかよく分からねえけど、じゃあ俺にもくれるの金？

ギターの男　心のかけらと引き換えに。

ギャンブル男　（半信半疑で）あ、そう。

ギターの男　その人の歩んで来た人生の中で掛け替えのない思い出を少しだけ分けてもらう。

ギャンブル男　・・・ふーん、でどうしたらその、心のかけらつてやつを買つ

てくれるんだ？

ギターの男 簡単だよ、そこに立って目を閉じる。そして心を落ち着かせて自分の心だけに意識を集中する。

ギャンブル男 本当になれるんだな金。とりあえずは明日の軍資金くらいはほしいな（と言いながら舞台中央に立つ）ほらこれでいいか？

ギターの男 （ギターを持って）うん、そうしたらゆっくり目を閉じて心を静かにする。

ギャンブル男 おい、十万くらいは

ギターの男 しっ！ 静かに、お金は払う。

ギャンブル男 おう、ならいいけどよ・・・。

ギターの男 ゆっくり目を閉じて心を静かにする、こっちは気にせず周りの事も忘れて、自分の心だけに意識を向ける。

辺りは暗くなりギャンブル男だけが浮かび上がる。

ギャンブル男 自分の心だけに意識を向ける・・・。

ギターの音が聞こえてくる。

どこからかパチンコ屋の賑わう音が聞こえてギターの音はかき消される。

パチンコに熱中するギャンブル男。

ギャンブル男 よっしゃっあ、リーチ！

盛り上がる男。

ギャンブル男 来いっ来いっ、止まれっ！ はいっ来たー！

更に盛り上がる男。

ファンファーレが聞こえてくる。

アナウンサーの実況。

「各場ゲートインから一斉にスタート！」

ギャンブル男 よっしゃあー、行け行け行けえーいっ！

いつの間にかそこは競馬場。
馬の走る音。

アナウンサーの実況。

「第二コーナーを周ったところで先頭は予想通り、ビルゲイツ。

各馬一団となって、ラリーページ、セルゲイブリン、ジエフベズ、マックザーガーバグ、ステイーブジョブズ、そしてやや遅れを取ったがここでアジアから、ジャックマー、さらにその後方から抜群の吸引力を誇る、ジエームズダイソン、そして更に続いてここで我らが日本勢の、ヤナイタダシ、ソンマサヨシ、ミキタニヒロシ、も必死に食い下がる、その最後方には夢の町の住人、マエザワユウサク、果たして無事に月に辿り着く事が出来るのか！

おおっと、第三コーナーを周って第四コーナーにかかったところで先頭は予想通り、ビルゲイツ。

日本勢とは大きく差を広げて。

さあ、最後の直線コースに入ったあ。

各馬一斉に鞭が入るっ。

ああとここでガーフアから一歩抜きに出た、ジエフベズ、他も懸命に後に続く。

先頭のビルゲイツこのまま逃げ切るか、しかしジエフベズ猛烈な勢いで追い込んでいく、この勢いは正にaからZすべてを飲み込む勢いだっ！

来たっ来たっ来たっ来たあっジエフベズついにトップに躍り出た、そしてそしてそのまま眩しい、眩しい、眩しい頭一つ飛び貫けてゴールイン！

この結果を予想していたかの様にロゴは笑みを浮かべております。」

ギターの音が戻ってくる。

男の興奮は静まり呆然と立ち尽くしている。

ギターの男 (男に近づき) はい、約束通り。(お金を差し出す)

ギャンブル男 えっ、ああ。(お金を受け取り) ありがとう。(金額を確認して)

本当にくれるのか？

ギターの男 (笑顔で頷く)

ギャンブル男 何だか、悪いなあ。

ギターの男 とんでもない。

ギャンブル男 これ偽札じゃあないだろうな？

ギターの男 本物ですよ。

ギャンブル男 (確かめながら) おう、やっぱり後から返せって言っても絶対

に返さねえからな。

ギターの男 はい。

ギャンブル男 ・・・こんな楽に金が入るんだったら、もっと早くにあんなに会いたかったよ。しかし世の中にはいろんな人間がいるもんだなあ。(お金を見つめる)

ギターの男 間違はなく全部本物ですから。

ギャンブル男 (考え深げに) いやそうじゃねえんだよ、何て言うかその・・・俺はこれのために毎日必死こいて生きて来た。だってそうだと金が無きゃ生活出来ねえもんなあ。だからどうやったたら効率よく金が稼げるか、割に合わない事はしないでいかに損をしないで多くの金を稼ぐか、そんな事を真面目に考えたね。それはもちろん自分のためでもあるし、家族のためでもある。(笑い出す) 所がどうだ今は金があるどころかマイナスさ、おまけに女房には逃げられて腹の中にいた子供の顔すら知らねえ有様よ、笑えるだろう。

ギターの男 ・・・。

ギャンブル男 この金を見てると、ふとそんな事が頭をよぎったのよ。金のためにあんなに苦労してたのに、こうも簡単に手に入るんだからなあ・・・。(吹っ切れて) よしっこなりやあ折角降って湧いた泡銭、有効活用しねえとなあ。こいつを元手に・・・、こいつを元手に・・・、こいつを元手に、あれ、何だったかな・・・。

ギャンブル男は一人思索している。

少女が目を擦りながら現れる。

少女 ねえ、わたし眠くなってきた。

ギター男 ああゴメンゴメン、すっかり一人きりにさせちゃったね。

ギャンブル男 この金で明日何をするつもりだったか・・・。まいったか、そのコンビニで酒とつまみでも買って帰るか。(振り返り) あんちゃん、ありがとな。

ギター男 いいえ。

ギャンブル男 (おどけて少女に) 毎度お。

男は気分よく去って行く。

少女 あのおじさん、お友達?

ギター男 いや、違うよ。

少女 おじさん楽しそうだったね。

ギター男 うん、そうだね。さあそろそろ未来もお帰り。

少女 うん。

ギター男 一人で大丈夫かい?

少女
ギターの男
大丈夫、家すぐ近くだから。それじゃあまたね。
それじゃあ、また。

少女を見送る男。
反対から青年（風間真）が明細書を見ながら歩いてくる。
真は男に気づかずにつづかる。

真
ギターの男
あすみません大丈夫ですか？

真
ギターの男
あ、はい。こちらこそすみません、道のど真ん中で突っ立ってたりなんかして。

真
ギターの男
いいえ。（明細書に視線を戻してため息、会釈をして行く）

真
ギターの男
（振り返り）はい？

真
ギターの男
（満面な笑顔）
え？（ギターが視線に入り）あすみません、今はそんな気分じゃあないんで。

真
ギターの男
よかったら話、聞かせて下さい。
えっ？

真
ギターの男
何だか悩んでいるみたいだから、また何かにつづかるといけない。いや、でも。

真
ギターの男
思い悩んでいる事を他人に聞いて貰う事で、気持ちも少しは楽になるかもしれない。

真
ギターの男
人に話して楽になるくらいだったらもうとっくに解決してるよ、えなに占いもやってるんだ。

真
ギターの男
占いは、やってない。
あそう、じゃあ勧誘か何か？ どっちにしても俺、金も無いし力になれないと思うから。

真
ギターの男
お金はいらない。（真を指差し）心のかけらを買っているんだ。

真
ギターの男
えっ？（半信半疑で）心のかけらを・・・、いくらで？
それは話を聞いてみない事には。

真
ギターの男
お金、くれるの？

真だけにスポットが当たり。

真
（独白）ふん、父さんが病気で倒れて入院した。

満智子が現れ疲れた様子で机に伏せる。

真
それからは母さんが毎日フルタイムで働いて家計を支えながら父さんの面倒を見て、それと同時に祖母ちゃんの介護をしている。

そんなだから俺も少しでも働いて母さんの手助けしてあげなきゃ
と思ってるんだけど、学校に行きながらだと自分の学費すら稼
げてないのが現実で……。お金さえあれば母さんだって無茶す
ることなく、父さんはもっと環境のいい医療を受けられて、俺だ
って大学を辞めずに自分の目標に向かって遣りたい事だけに集中
できる……。

そこは真の自宅。

満智子

あら真、帰ってたの。

真

うんただいま、今帰ったとこ。

満智子

ご飯は？

真

バイト先で賄い食べたから。

満智子

そう、(立ち上がり) よいしょっ。

真

母さん大丈夫？ 少しは休んだ方がいいんじゃない？ おれ、

満智子

大丈夫よ、ありがとう。

真

でも、あのさ。
大学を辞めようとか考えてるんじゃないんでしょ？

満智子

えっ。

真

それで自分もっと働いてお金を稼げば、家計が楽になるとか考

満智子

えてるんでしょ？

真

(明細書をポケットにしまい)……。。

満智子

真はお金の心配なんてしないでいいのよ、それに今辞めたら今ま

で払った学費が勿体ないじゃないの。あと部活、レスリングはど
うするの、続けられなくなっちゃうでしょう。そうなたら一番
ガツカリするのはお父さんよ、真も子供の頃からいつも言ってた
でしょう。僕はお父さんを越えるんだ、そして一番になるんだっ
て……。

うん分かってる、分かってるよ。

真

ああなんだか懐かしいわねえ、真がまだ小さかった頃お父さんと

満智子

よくレスリングの練習をした日のが……。

昔の父(英雄)が現れて。

英雄

さあやるぞお。

真

え。

英雄

何ボーっとしてんだ真、さあこいっ！

真

ううん。

満智子

真っ、がんばれっ。

英雄と真が組み合う。
投げ飛ばされる真。

満智子
真

真しっかり！
よーし、見てろ。

英雄に何度も投げ飛ばされる真。
その光景を見守る満智子。

満智子
英雄

あなた真はまだ子供なんだから少しは手加減してあげて。
そんなんじやあ父さんを越えるどころか自分の目標すら見失うぞ
お、（投げ飛ばし）ほらっどうしたもうおしまいか？

再び真だけにスポットが当たり。

真

（息を切らし）分かってる、分かってるよ。母さん何も心配しないで大丈夫だから、お金、何とかなるんだ。だから父さんの医療費は気にしないでいいよ、母さんが無理して働く事はないんだ、今まで通り普通の生活に戻って大丈夫なんだよ。俺は大学もレスリングも辞めたりなんかしないから、だって父さんとの約束もあるし、それに第一目標も何もなかったただお金のためだけ生きる、世の中の奴隷みたいな刺激のない人生なんて俺嫌だ。生き甲斐のない将来に、希望が持てない人生なんて俺は嫌だからさっ！

音楽は高まり。

暗転

二場

明転

高架下、電車の音。
ギターの男が座っている。
そこへ風俗嬢が通りかかりハンカチを落とす。

ギターの男

あちよっとお姉さん、（ハンカチを拾い）落としましたよ。

風俗嬢 あら、どうも有難うお兄さん。
ギターの男 いいえ。

風俗嬢は行こうとするが踵を返し。

風俗嬢 ねえ、お兄さん。

ギターの男 、はい？

風俗嬢 これから始めるの？ 路上ライブ。

ギターの男 いやそう言うのとは少し違う。

風俗嬢 あらそう、じゃあそれはその中には何が入っているの？

ギターの男 これ？ ギターさ（ケースを開き）ほら。

風俗嬢 ああそれじゃあれね、ギター弾きながら漫談したりする芸人さんとか。

ギターの男 いや、芸人じゃない。

風俗嬢 、まあどっちでもいいわ。ねえお兄さんこれから少し飲みに行かない？ こんな誰もいない所で弾き語るより、ちよっと一杯飲みながら語ってみない、ねえいいでしょう。ここから二駅先に私の働く店があるのそこでちよっとだけ、ね。・・・店に行けば私よりも若くて綺麗な嬢もいるし。

ギターの男 お姉さんも十分綺麗ですよ。

風俗嬢 あらありがとうお世辞でも嬉しいわ、その言葉お店で聞けたらもっと嬉しいんだけど。正直最近、客足が遠くてね。

ギターの男 どこも不景気みたいで。

風俗嬢 そう景気の影響を真っ先に受けるのはいつも私たち。

ギターの男 大変なんだね、夜の仕事も。

風俗嬢 そう、大変なのよ水商売も。

ギターの男 ・・・・思い切って転職してみるっていうのはどうかな、生活環境を変えてみるのも悪くないと思うんだ。

風俗嬢 随分簡単に言ってくれるのねお兄さん。ええそうね私も何度かそろそろ夜上がりたいたいなって求人情報を漁ったけど、時給の低さに断念したわ。

ギターの男 そんなに違うの時給？

風俗嬢 ええ違うわ・・・、私子供がいるのよ、そうバツイチ今どき珍しくないでしょう、おまけに借金もある。前の旦那がお金にだらしくなくてね、だから少しでも多く稼がなきゃいけないのよ私とおチビちゃんの生活のために。

ギターの男 そう。

風俗嬢 やだ私、見ず知らずのお兄さんにこんな事話したりなんかして。

ギターの男 知らないから、いいんじゃないかな。

風俗嬢 （感慨深げに）そうね、たまにはいいわよね。

ギターの男 うんいいさ、たまには。
風俗嬢 ・・・私ね、みっともないのよ、醜くて卑しい女なの。でもね外

からはそれが分からない様に綺麗に着飾ってブランド物のバッグを片手に毎日この道を通って出勤するの。お店に着いたらお客様に少しでも多くのお金を落としてもらえるように、鏡を片手にリップを塗って香水をつけて最高の笑顔でお酒をつくるの。そしてまた私に会いに来てもらえるように名残惜しい顔をして店先で見送りをする、明日も明後日も。

ギターの男 その、次の日も。
風俗嬢

そう、次の日も・・・。お金ってね善人だろうが悪人だろうがどんな人もすべてを飲み込む寛容さを持ち合わせているの。お金はすべての所有者に等しく優しい、そして裏切らず持ち主を差別しない。男だろうが女だろうが不条理な慣習を押し付けづ文化すらも強要しない。お金には自由があるわ、そして何よりも重要なのは、お金が一番大切なもの・・・ではない。

ギターの男 、そう、お金より大事なものがあるからこそ私は今、お金が必要なの、必要だったの。
風俗嬢

分かっているさ、そんな事は、誰でもみんな知っている事さ。ええ、でも私は知らなかった・・・、いや正確には知らないふりをしていた。まだ赤ん坊だったあの子と私自身の生活のために、名前も知らない人をお客に奉仕した事もあった。風俗は体じやなくて心を癒すものだと言いつつ聞かせながら、体は売っても心は売らないと自分に言い聞かせながら、そう自分を信じて・・・。(ハンカチで涙を拭う) ただごく普通の、人並みの生活をするために・・・。

ギターの男

泣きたい時は泣けばいい、自分の心に素直になって涙を流したらいい。人は一生懸命生きていると時に心が分からなくなる、涙はそんな心の曇りを晴らしてくれる、心の目薬だからね。

風俗嬢

(微笑んで) わかった、あなた詩人なのね。

ギターの男

いや詩人じゃあない。

風俗嬢

そう、それじゃあ人生相談所とか。

ギターの男

(頭を振る)

あ分かっただ占い師でしょう、そこに座ってサイコロ振ったりタロットカードめくったり。名前はちよつと待って(辺りを見て) ガード下の父。

ギターの男

(頭を振る)

風俗嬢

それじゃあ(思案する)

ギターの男

心のかけらを買っているんだ。

風俗嬢

え？

ギター の男 此処で心のかけらを買っているのさ。

風俗嬢 心のかけら？

ギター の男 そう、その人にとって掛替えのない温かい思い出を、少しだけ分けてもらっている。

風俗嬢 温かい思い出を？

ギター の男 そうさ。

風俗嬢

(辺りを見回し) だったらこんな時間にこんな所でやるよりも、もっと明るくて人通りの多い所でやった方がいいんじゃないの、

ギター の男

いや此処が丁度いい、あまり人通りが多いと気が逸れるし、適度に暗い方が心を通わせやすい、だろ？

風俗嬢

そうね、確かに。でも生憎今の私には温かい思い出に浸る余裕なんてなさそう、思い出したくもない過去なら沢山あるけど。とりあえず今は平穏な毎日を娘と過ごせばそれでいいわ、ごく普通の生活さえ出来ればそれで……。それじゃあ私そろそろ仕事に行くわ。

ギター の男 行ってらっしゃい。

風俗嬢

さあ今日も稼いでくるか、お兄さんも気が向いたら飲みに来て。

(名刺を渡す)

ギター の男

ありがとう。(行く)

風俗嬢

それじゃあまた。

ギター の男

……。きつとお姉さんにも、素敵な未来が、来るさ。

風俗嬢は一度歩みを止めて微笑み、そして去る。

男はギターの手入れをする。

そこへ、大道芸人が現れる。

大道芸人

おっ兄弟、やってるな。

ギター の男は愛想笑いをする。

大道芸人は歩み寄り座り込む。

大道芸人

(様子を窺って) こころじゃあまり見かけないねえ。

ギター の男

ええまあ。

大道芸人

いつもは何処でやってるの？

ギター の男

、特に決まった所は。

大道芸人

あそう、にしても何で此処なの？ もっと人通りがある場所であればいいのに、パフォーマンスは人に見てもらわなきゃ意味ない

でしょう。まああれか、駅前とかそういう所は許可とか取らないとうるさいもんね、でしょ？

ギターの男
まあ。

大道芸人
こちとら人を楽しませてやろうって言うのに許可だの何だのってなあ、そんな构子定規な考え方だから世の中段々とつまらなくなって行くんだよ。どうせ生きるんならワクワクに溢れた人生の方がいいに決まってるのになあ、だろう？

ギターの男
そうだね。
大道芸人
そうだよワクワクドキドキしない人生に明日なんてないよ、だから俺達アーティストは明るい未来の先導者となって迷える子羊のために惜しめない芸を提供するのさ。(得意げに笑う)

ギターの男
俺達？

大道芸人
、ああ、俺芸人なのよ、イベントのステージとかで(鞆を指し)

ピエロやってるんだ。(カツラをつけながら) 今日西の方のショッピングモールで夢を売って来た。

ギターの男
夢を？

大道芸人
とてもいい仕事だね。
ああいい仕事さ、いい仕事、とびっきりのな……。

大道芸人は物憂い気宙を見つめる。

電車の通り過ぎる音。

我に返る大道芸人。

大道芸人

(笑いながら) いい仕事なんだけどなあ、食っていけねえんだよなあ、これだけじゃあ。現実はそう甘くないって事だよ、なあ兄弟。

ギターの男
芸は身の仇。

芸は身を助ける、俺はそう信じてるね。だから俺は意地でもやめねえ、周りはいろんな理由こしらえて離れて行くけどな。

ギターの男
周り？

ああそう、俺はピエロやりながら舞台俳優もやっているんだ。前は養成所で知り合った仲間と劇団を立ち上げてたのよ。あの時の皆の顔は希望に溢れて、目はキラキラして身体中からみなぎるエネルギーは鬱陶しいくらいだった。そうみんな若かった、(笑みを浮かべ) 歳をごまかしていたおっさんもいたよ。

電灯にぶつかる虫を眺めながら。

大道芸人

夢を持っている人間ってのはまぶしいね、輝いている。輝いている所には自然と人が集まってくるもんさ。俺も輝いていた……。
今はやってないの、劇団。

ギターの男

電灯が消える。

大道芸人

夢はいつか覚めるもんさ、次第に輝きは失せて一人そしてまた一人と現実という荒波にのまれていった。それでも俺は続けたね例え他人に叩かれ夢を汚されようとも。

ギターの男

あなたは荒波にのまれなかったの？

大道芸人

何度ものまれそうになった、今だって……。

ギターの男

それでもどうしてあなたは続けることが出来ているの？

大道芸人

信じているからさ、夢の先にある本当の輝きがある事を。

ギターの男

本当の輝き？

大道芸人

希望さ、夢は覚めるけど希望は未来を生きる力になる。だから俺は言ったのさ現実ののまれて行くこうとする仲間に「嫌な事を忘れるくらい楽しい事をやって夢を見るのもいいけど、これからは地に足をつけて沢山の人達に希望を見せてやろう」って。そうしたらこう言われたよ「希望じゃあ飯は食っていけないんだよ」って……。それで今の俺はそいつの言った通り、芸だけで真面に飯は食えてねえ、格好悪いだろう。(笑う)笑えるね、道化役者(再びカツラをつけて戯ける)ピエロさ。

ギターの男

大道芸人

(真面目になつて)俺は間違つてなんてないよな？

ギターの男

間違つてなんてない、きつとあなたの芸で救われる人もいる。

大道芸人

そうだよな、だってよ大人はともかく将来のある子供たちに、未来がやってくる子供たちに、本物の夢や希望を見せられないなんてアーティストでもエンターティナーでも何でもないもんな。

ギターの男

(頷き)何でもない。

大道芸人

(興奮気味に靴からノートを取り出し)俺はまた芝居をやる。こいつは、今度俺の創る舞台は、世知辛い世の中を一時的に逃避するための物ではなくて、明日からの未来を期待と希望で溢れさせるものにする。例えば農家で作った米や野菜が人の体を作る様に、俺がこれで創る舞台は、人々の健やかな心や精神を培うものにするんだ。だから俺の舞台のチケット代は明るい人生を生きるための、未来への投資なんだよ！

ギターの男

観に行くよ、いつ何処でやるの？

大道芸人

(再び興奮して) そうだな場所は、芸術と希望に溢れた池袋辺りがいいかな。劇場は(ぐるりと歩き) 此処くらいの広さの処にしよう。公演する時期は、時期は……。

ギターの男

時期は？

大道芸人

(我に返り) 時期は、ある程度、……金の目処がついてからだ。

ギターの男

金の目処？ どれくらいでつくんだい？

大道芸人

これくらいの広さの処でやろうと思ったら、俺の今の年収以上の金は必要だろうから、そうだなバイトでちみち稼ぎながらだと、

いつ頃になるか。宝くじでも当たればなあ、その足で劇場でも予約しに行くんだけどよ……。未来に投資どころか今を生きるのに精一杯だからなあ、正直なところ……。

ギターの男

じゃあやらないのかい、そいつを。やりたいのは山々さ、だけど俺には上手く金を動かす才覚がないらしい。貧乏人には結局夢も希望も見ることが叶わないって事か、情けないピエロだぜ……。

大道芸人

ギターの男

俺が買おうよ。

大道芸人

え？

ギターの男

あんたのその心、俺が買おうよ。

大道芸人

金、出してくれるのか？

ギターの男

ああ、その熱い心と引き換えに。本当かよおい。

大道芸人

二言はない。

ギターの男

(手を取り) ありがとうっ兄弟！ いやあ最初見た時から何か只者じゃない気がしてたんだよ。やっぱあれかあんた何処かの会社

大道芸人

のお坊ちゃんか何かか、ああそんな事はどうだっていいやなあ気悪くしないでくれよ。でどうしたらいいんだ俺は、何をすればいい、どうすりゃあ出してくれるんだ？ 金。

ギターの男

そこに立って。

大道芸人

おう、此処だな。

ギターの男

うん、そしてゆっくり目を閉じて心を静かにする。こっちは事にせずつの事でも忘れて、自分の心だけに意識を向ける。

大道芸人

自分の心だけに意識を向ける……。

ギターの男

何の疑いもなく、夢や希望に生きたあの日を思い出して、ただ幸福だったあの瞬間を思い出して。

福だったあの瞬間を思い出して。

辺りは暗くなり大道芸人だけが浮かび上がる。

大道芸人

夢や希望に生きたあの日を思い出して……。

ギターの音、そしてダンスミュージックが聞こえてくる。何人ものダンサーが現れる。

大道芸人はセンサー、皆と一緒に踊る。仲間との最高のエンターテイメントは終演し、ギターの音が戻ってくる。

男の興奮は静まり、独り呆然と立ち尽くしている……。

ギターの男

これ。(封筒を渡す)

真 奏 から顔出したんだけど、もういいかななんてね。
真 奏 私も明日香に呼ばれて。
真 奏 そうか、あいつら何かと俺らを巻き込むからな。二人で仲良くデートしとけばいいのに。

(笑顔)

真 奏 奏ちゃんもピアノのレッスンあるしねえ、俺らはそんなに暇じゃねえつーの。(笑)

真 奏 真くんは偉いよね、自分の目標に向かって地道に努力し続けているから。

真 奏 奏ちゃんだってピアノ頑張ってるじゃん。

真 奏 うんそうなんだけど、けど何だか最近レッスンに身が入らなくて。だからいつも変わらずに練習に打ち込む真くんが凄いなってね。

真 奏 全然凄くなんてないよ、それに俺そもそも何でレスリングなんてやってるんだろうって思っているんだよね。

真 奏 え？ だってお父さんがレスリングしていたからでしょう？ だから真くんお父さんより良い成績を残してお父さんの期待に応えるんだって、それが何よりも親孝行なんだって頑張ってたんじゃないの？

真 奏 え、そうだったけ？ 父さんと、レスリング……。

明日香が現れ、続いて小川も現れる。

小川 明日香ちゃんさつきから何探してんの？

小川 明日香 えー、うちのキャンパスにもリスが居ないかなあ。

小川 明日香 えリス？ 居ないでしょう、大学は動物園じゃあないんだから。

小川 明日香 ええでも北海道の大学のキャンパスには野生のリスが居るんだってよ、いいなあ。

小川 真 奏 そうなの、まあ北海道ならありえるのか。でも流石に此処には居ないでしょう。

小川 真 奏 俺タヌキなら見たよ

小川 真 奏 はい嘘。

小川 真 奏 嘘じゃねえし。

小川 真 奏 私ハクビシンなら見たよ。

小川 真 奏 え何それ？

いつの間にか山田が現れて。

山田

体長は五、六十センチくらいで額から鼻にかけて白い線があるジヤコウネコ科の哺乳類。

小川

なるほど。

山田

因みにタヌキと同様、ハクビシンも夜行性なので校内で出会う確率は低い。

小川

そうか、だから俺は見た事なかったのか。

真

誰？

小川

ああえっと、山岳部部長の

山田

何かが俺を呼んでいる、地球の鼓動が俺の心に語りかけてくる。

小川

空か？

山田

空だっ！

小川

海か？

山田

海だっ！

小川

山か？

山田

山だっ！

小川

どうも山岳部部長の、山田です。

山田

よっ山田っ。(拍手)

真

俺そろそろ行くわ。

小川

ちよちよちよつと待てて、今日君達を呼んだ理由は結論から言

真

うと、今度の連休キャンプに行こうと思って声を掛けました。

小川

キャンプ？

小川

そう、我々コンクリートジャングルに閉じ込められた刺激のない

明日香

生活に、本来の健全な彩りを取り戻すため明日香ちゃん提案の元、

小川

一泊二日でキャンプをする事にしました。

明日香

私は自然がいっぱいある所でキャンプとかしたら楽しいだろうな

小川

って言っただけなんだけどね。

小川

とは言え知識も経験も何も無い我々だけだと不安なので、今回ス

明日香

ペシャリストの山田先輩にも加わってもらおう事にしました。

山田

山田先輩よろしくお願いしまーす。

小川

今回は皆キャンプ初心者という事なので、初めての人でも安心安

小川

全プランで行こうと思います。もちろん皆は手ぶらでオツケー、

小川

現地のキャンプ場は自然に囲まれながらも五右衛門風呂があった

小川

りなんかしてね、夜になると澄んだ空気の向こうには満点の星空

小川

が迎えてくれる。そんな空の下、皆で一つの焚き火を囲んで食べ

小川

る食事はどんな高級レストランでも味わえないものがあるからね

小川

こればかりは都内のオーナーシェフもお手上げだね。

小川

よっ山田っ！

真

俺は。

明日香

何か思ってたより楽しそう、ねえ奏もそう思わない。

奏

うんそうだね、山田先輩？ のガイドがあるんだったら何だか安

小川

心そうだし楽しそう。

小川

よっじゃあ決まり、これから細かい事を決めに行きましょう先

山田

明日香

奏

明日香

奏

真

奏

真

奏

真

奏

真

奏

輩、俺コーヒー奢りますんで。(行く)

おう。(行く)

あ私も行く、奏もおいでよ。

うん。

ちよっと待って(二人を追いかけ)ねえリス居るかなあ。(行く)

真くんはこれから、練習だもんね。

うんまあ、意外だったなあ。

え？

奏ちゃんキャンプとかそういうのイメージなかったから。

ああ、うん。

インドア派っていうかピアノ一筋って感じだったから。

そう？

うん。

時々無性に自然に触れなくなる事があるの私。ほらさっきも言ったけどピアノの練習に集中出来ない事があったりして、そんな時は特に。で自然に囲まれていると風の音や鳥の囀りやいろんな音が聞こえてきて、ああ世界はこんなに音楽で溢れているんだなって。それでお休みしていた私の心呼び覚ましてくれるの。心と呼び覚ましてくれる？

そう、でもね大人になるにつれて私は何のためにピアノを弾いているんだらうって考える事が増えてきて夜眠れなくなる事があるの。一緒にピアノを弾いていた友達も夢を諦めて音楽自体をやめちゃったり、英才教育を受けている別の子は留学したりなんかして。じゃあ独り取り残された私はこれからどうしようって……。俺は奏ちゃんがピアノに対して本気で取り組んでいる姿勢にいつも刺激をもらっている、もちろん俺とはまったく違うジャンルだけど、でも何か一つの事に信念を持って頑張っている人って美しいもんね。

え？

え？ あいやだから何て言うか眩しいって言うか、輝いているって言うか。だから個人的にはこれから奏ちゃんにはピアノを続けてほしいなってね。

真くん、応援してくれてたんだ私の事。

ん、うんまあ。

ありがとう。

うん、うん。

私ね今まで何となくピアノを弾いていて、大学も家から近くって理由で選んだりして将来どうしたいかなんて考えてなくて。それでいざ進路を決める時になって、私何がしたいんだらうって……。

真 奏

真

奏 真 奏

奏 真

奏 真

真

真 奏 真 奏

奏

・ ・ ・
本気になるのが少し遅かったのかもしれないって、本気って頭で考えるだけじゃなくて行動に移すのが大事で。 ・ ・ ・私、プロのピアニストになりたい。だから私、プロのピアニストになるために音楽留学しようと思って、今からでもやれるところまでやってみようと思うって。

遅くないよ、全然遅くなんかない。なれる、奏ちゃんならきっとプロのピアニストになれる。そうやってちゃんと自分の未来に向かって動き出そうとしているんだから。でもね一つだけ大きな壁があって ・ ・ ・。

壁？
うん、当たり前だけど結構なお金がかかるんだ。これまでの学費だってそうだし子供の頃から習っていたピアノのレッスン代だって馬鹿にならない。その上今から留学するからお金出してくれないって親にはとても言えない、家は特に裕福って訳でもないしね。

・ ・ ・お金。
それで考えたの、クラウドファンディングで私の夢を支援してくれる人を募ろうって、もう少しだけ悪足掻きしてみようって。 ・ ・ ・でも流石に世の中そう甘くなんてないね、目標金額まで全然届きそうになくて。

・ ・ ・
私のピアノに対する本気って所詮こんなものなのかなって突きつけられた気がして、そんな不甲斐ない自分自身を見ていると何だかピアノにも集中できなくて。

まだ終わってないんでしょっクラウドファンディング。俺は正直お金ないけど知り合いに頼んでみるよ、バイト先のオーナーとか店長にも。俺けっこう勤務態度いいから信頼されてるんだこう見えても。

ええ？
あと友達にも不動産屋の息子とかいるからさ。
ありがとう真くん、でももう期間もないし ・ ・ ・。

えっそうなの ・ ・ ・。いやまだ時間はある諦めないで奏ちゃん、諦めない限り可能性は繋がっている。奏ちゃんは周りに夢や希望を振り撒ける存在になる人だと思うんだ、何の根拠もないけど。でもなんかそう感じるんだよね、俺は。そんな人が一生懸命頑張ってる夢を追う姿って美しいし何より勇気を貰えるんだ。奏ちゃんの努力はきくと報われるし、それはピアノの音となって沢山の人の夢中にさせて感動させられるよっ。だから、だからね、俺は最後まで応援するよ！
真くん。

真

だから諦めちゃあダメだ！　ねっ奏ちゃん。未来は明るい、下を向いていても虹は見つからない。きつと、きつと明るい未来が俺達を待っているんだっ！

音楽は高まる。

照明は真を明々と照らして。

暗転。

三場

電車の音。

明転。

高架下、ギターの男が座っている。

そこへ少女がやって来る。

少女

あ、居た。

ギターの男

ん、ああ、くるみ、未来じゃあないか。今日もお母さんのお迎え

少女

かい？

ギターの男

うん、今日は違うの。今日はおじさんのお願いがあつて来たの。

少女

お願い？

少女

あのねもうすぐお母さんのお誕生日なの。それでね未来はいつも

少女

お母さんのお誕生日にはお手紙を書いてプレゼントしてるの。だ

少女

けどね今度未来は小学生になるでしょう、お姉さんになるんだか

少女

らお手紙だけじゃなくしてお母さんの絵も描いてあげようと思っ

少女

てるの。

ギターの男

うん。

少女

だつてお母さんいつもいつも私のために夜遅くまでお仕事してる

少女

から。だからねキレイにお化粧して髪の毛をふわっとしている美

少女

人のお母さんの絵も描いてお手紙と一緒にプレゼントしてあげよ

少女

うと思ってるの。

ギターの男

それはいい、きつとお母さんも喜ぶよ。

少女

うん、けどね私、色えんぴつを持ってないからキレイなお母さ

ギターの男

んを描いてあげられなくて。

ギターの男

色えんぴつ？

少女

そう、だからおじさんなら色えんぴつを持ってるかもしれないと

少女

思つて、ちよつとだけ借りに来たの。

ギターの男

色えんぴつか・・・。

少女

近くのお店にはね何本も入ってるものもあって、まるでお空の虹色みたいなんだけど、でもそれは売り物だから貸してもらえないと思うの。

ギターの本

未来ごめんね、おじさん色えんぴつは持ってないんだ。

少女

・・・私ね、お母さんをびっくりさせてあげるの。キレイな色をつかって美人なお母さんを描いてあげたらきつと喜んでくれると思うんだ・・・。

ギターの本

そうだね。

しばらくの間。

ギターの本

こうしよう未来、おじさんが今からギターを弾いてあげる。未来はそこに座って静かに目を閉じてごらん。

少女

うん、わかった。

ギターの本

そうしたらこっちの事は気にせず周りの事も忘れて、自分の心だけに意識を向けてごらん。

辺りは暗くなり少女だけが浮かび上がる。

少女

うん、自分の心だけに・・・。

ギターの音が聞こえてくる。

男と女の会話が聞こえてくる。

その声は水中に反響しているかの様。

真由未

(鼻歌を歌っている)

寿来

ただいまー。

真由未

あ。パパが帰って来たわよ、お帰りなさい寿来さん。

舞台上に二人のシルエットが現れる。

寿来

ただいま真由未。

寿来は真由未の大きくなったお腹に向かって。

寿来

おーい。パパ今お仕事から帰って来ましたよお、いい子にしてましたかあ。

真由未

ええいい子にしてみましたよねえ、あっほら今動いた。

寿来

えっ本当？ どれどれ、あ動いた動いた。

真由未

ねえ寿来さん、この子の名前なんだけど。

寿来

真由未

真由未

寿来

二人

寿来

真由未

寿来

真由未

二人

名前かあ、やっぱり女の子らしいのがいいよなあ。例えば花の名前が入ってたり、あと画数なんかも考えなきゃいけないよなあ。うんそうね。

じゃあ今度占い師にでも相談してみようか、真由未はどこか評判のいい占い師とか知ってる？

ううん知らないわ。

そうか知らないか、じゃあ明日でも職場の子に何処かいい所がないか聞いてみるよ。

うん。

名前は自分たち親からこの子にあげる最初のプレゼントだからな、一生ものだしどんな名前だとかこの子も喜んでくれるかな。

実は私、一つ考えてるんだ。

えそうなの、何て名前？

・・・くるみ。

クルミ。

そう、くるみ。字は私の真由未の未と言う漢字と、あなたの寿来の来と言う漢字を合わせて、くるみ未来。

なるほど、俺達の名前を一文字づつ取って合わせた名前でクルミか、うん。でもそのままだとミライって読みになるから漢字を上入れ替えないとね。

うん、いいのそのまま。ミライ(未来)って書いてクルミで。

え、そうなの？

私達にとってもこの子にとってもこれからまた新しい未来がやって来る、明るい素敵な未来が・・・。

そうか来る未来みらいでクルミか。うん、いい、いいよ真由未。未来と

書いてクルミ、よし決まりだ今日からこの子の名前はクルミ、未来くるみだ！

良かった気に入ってもらえて。

おーい未来くるみ聞こえてるか、今日からお前の名前は未来くるみだぞ。お父

さんもお母さんも、早く元気で笑顔の未来に逢いたいよお。

あっ！

また動いた。

未来も早く私達に逢いたって言うてる。

なんて可愛いんだ、もう未来が愛しくてたまらない。

寿来さんったら。

(笑う)

寿来

あそうだ、今日は未来にプレゼントを買って来たんだ、ちょっと待ってろよ。

真由未

え、もう寿来さんったら気が早いんだから。

寿来

じゃーん、ほらっお人形さんだよ。

真由未

わあよかったわね未来。

寿来

これでパパがお仕事で居ない時でも寂しくないだろう、このお人形さんはパパの分身みたいなものだ。これでパパと未来はいつでも一緒だからなあ。

真由未

寿来さん、私は？

寿来

もちろん真由未も一緒だよ。

真由未

よかった。

三人

(笑う)

再び水中から反響する様な声に。

寿来

これからはパパとママと未来、そしてこのお人形さんも皆一緒だからなあ。早く元気に生まれて来てくれよ、未来。パパは家族のために沢山お金を稼いでおくからなあ。

二人の幸せそうな笑い声。

ギター之音が戻ってくる。

二人のシルエットは消える。

少女は宙を見上げている。

ギターの男

未来。

少女

おじさん。

ギターの男

(お金を渡し) これで色えんぴつを、虹色の色えんぴつでステキ

少女

なお母さんを描いてあげな。

少女

うんありがとう。(屈託のない笑顔)

ギターの男

(首を振る)

少女は帰ろうとするが振り返り。

少女

お母さんの絵を描いたら、次はおじさんの絵も描いてあげるね。

ギター

うん、ありがとう未来。

少女

それじゃあまたね、ばいばい。(行く)

ギター

の男
ばいばい。

×

×

×

×

風間家。

満智子と真がテーブルやイスを出している。

英雄は杖を片手に二人を見ている。

英雄

それは、俺が持とうか？

真

ううん大丈夫、父さんは座ってて。

英雄

ああ、そうか。

独りポツンとイスに座っている英雄。

満智子

こんなに早く退院できるなんてねえ、やっぱり最先端の医療技術は凄いもんですねあなた。

英雄

ん、うん。

満智子

いくら現代人の寿命が伸びたと言っても病気のまま床に就いて過ごすのと、こうして皆で食卓を囲んで過ごすのじゃあ生きる意義も変わってくるものね。

真

今どきは健康もお金で買う時代って事なんじゃない、だってお金が無きゃ受けられる医療も受けられないんだし。

満智子

でもほんと助かったわ、真には何も気にしなくていいとは言ったものの、正直あのまま働きづくめだったら私持たなかったかも。

真

そりゃあそうだよ、お祖母ちゃん看ながら全部自分でやるうなんて。疲れ切った母さん見てるところこっちまで滅入っちゃいそうだったよ。

満智子

だって子供に頼るのはまだ早いと思って、ねえあなた。

英雄

んうん、そうだなあ（動かなくなった腕お擦りながら）俺がこんな事になってしまったばかりに本当にすまんなあ。

満智子

仕方ないでしょう、あなただって病気になるりたくてなった訳じゃないんだから。

英雄

うん、そりゃそうだけど。

真

まあ世の中お金さえあれば大半の問題は解決するって事だね。

英雄

しかしそのお金を融通してくれた人は何をしている人なんだ、本当に大丈夫なのか？

真

大丈夫だよ、世の中には人の役に立ちたくてうずうずしてる人もいて、そんな人にたまたま僕が出会った、ただそれだけの事さ。（荷物を取りに行く）

英雄

まあ、何も無いんだっいたらいいんだけど、なあ。

満智子 ええ大丈夫ですよ、真がそう言うんだから。
英雄 うん、まあそれにしてもお礼くらいは行かないとな。その人は何処に行けば会えるんだ？
満智子 それが真が言うには、夜ガード下の路地で会ったらしくて。
英雄 ガード下の路地？
満智子 ええ、それでギター片手に。
英雄 ミュージシャンなのか？
満智子 さあ、どうなのかしら。

真が荷物をもって。

真 ちょっと出てくる。
満智子 え、こんな時間にどこ行くの？
真 ちょっとそこまで、今度友達とキャンプするからその話とか。気をつけて行って来いよ、それと今度そのギターの人にお礼をしたいから紹介してくれるか。
英雄 うん分かった、でもその前に体もっと元気になってからでしょう。
満智子 そうよ、もっと元気になってまた真にレスリング教えてあげなきやあ。
英雄 おおそうだな、またビシビシ鍛えてやるからな真。覚悟しとけよ。

英雄と満智子は楽しそうに笑う。

真 ……レスリング？
満智子 あなたは全然手加減してあげないんですから。
英雄 そらそうだよ、真もあの時みたいに子供じゃないんだから。
真 あの時みたいに、何の話ししてるの？
英雄 え？
満智子 真が子供の頃いつもいつもお父さんに投げ飛ばされてた時の事よ。
真 僕が父さんと？ 何を？
英雄 お前、何言ってるんだ。
真 そんな事はいいや、じゃあちよっと思って行く。(去る)
満智子 真。(あとを追う)

呆然と立ち尽くす英雄。

英雄 そんな事、そんな事って何だよ……。俺と組み合っって一緒に汗を流したあの時の、あの時間は……。真、お前にとって、あの日々は何だったんだ……。

×

×

×

×

高架下、電車の音。
ギターの男。
そこへ真がやってくる。

真
こんばんは。

ギター
の男

真
あれ、覚えてない、俺のこと。

ギター
の男

真
覚えてるよ、もちろん。

ギター
の男

真
お陰で父さん家に戻って来られたんだ、今度お礼がしたいって。

ギター
の男

真
良かった、礼には及ばないさ。

ギター
の男

真
ところで今日もやってるの？ 心のかけら買ってほしいんだ、ど

ギター
の男

真
うしてもすぐにお金が欲しくて。

ギター
の男

真
君のお金？

ギター
の男

真
うん、・・・大学の同級生なんだ。

ギター
の男

真
君の彼女？

ギター
の男

真
（照れながら）いやそうじゃないんだけど、でも応援してあげた

ギター
の男

真
くて何とか力になれないかと思って。

ギター
の男

真
その娘のことが好きなんだね。

ギター
の男

真
うん、まあ。

ギター
の男

真
・・・この道をまっすぐに行つて、あそこの角を曲がった所に無

ギター
の男

真
人契約機がある。

ギター
の男

真
え？

ギター
の男

真
そこで借りるといいお金を。大丈夫、二十四時間やっているから。

ギター
の男

真
え、いやそうじゃなくて。

彼女に伝わるっていいね君の想いが。

うん。（行きかけるが）じゃなくてさあ、また買ってほしいんだ俺

の心のかけらを。

・・・

彼女子供の頃からずっとピアノを習っていて今でもいつも練習は

かかさないうって、それだけ一生懸命やっているのに、何か一つの

事をずっと続けるだけでも大変なのに、お金が足りないってだけ

で今まで頑張つて来た夢を諦めなきゃいけないなんて酷くない？

俺、曇った彼女の顔を見てたら何とかしてあげたいって居ても立ってもいられなくて。だからお金が欲しいんだ、また心のかけらを買ってよ、ねいいでしょう？

ギターの男
真
・・・心を失くした人は、また他の人の心を濁らせる。

ギターの男
真

そして時には心そのものを奪ってしまふ。そうして心を失くした人は亡者となり、また新たな光を求めて彷徨う。

消えていた電灯がつく。

何処からか虫達が集まり必死になって光に向かってぶつかっている。

二人はその光景を見ている。

ギターの男

光に近づくと然も自身も光を発しているかのような錯覚に捕らわれる、が亡者は決して自ら光を放つ事はない。彼らが見るのはいつまでも続く白昼夢。

真
いつまでも続く、白昼夢？

ギターの男
真
自分は心のかけらしか買わない。

ギターの男
真
うん、だからまた買ってよ、俺の心のかけら。

ギターの男
真
君からはついこの間心のかけらを貰ったばかりだ、かけらとは言えこんな短期間にまた心を貰う訳にはいかない。

真
俺なら平気だよ。

ギターの男
真
君が平気だとしても周りが平気じゃないかもしれない。

真
周リ？

ギターの男
真
そう。心を失くすと気付かなくなってしまうものなんだよ。

、お願いだよっお願いだからまた俺の心を買ってよ。お金があれば奏ちちゃんは夢に一步近づける、俺は好きな娘が輝く手助けを出来る。お金があれば俺も奏ちちゃんも、父さんも母さんもみんな幸せになれるんだっ！・・・(土下座をして) お願いします、俺の心のかけらを買って下さい。

ギターの男
真
・・・今回はかけらではなくなるかもしれないよ。

え？・・・お願いします、お金が貰えるんだったら何でもいいんで。

ギターの男
真
分かった、買うよ君の心を。

（顔を上げ）ありがとう。よしそれじゃそこで？ えっとそこで

目を閉じて自分の心に意識を向けるんだったよね。

ギターの男
真
うん、その前にこれを。(コントローラーを渡す)

真
え何これ？

ギターの男
真
コントローラーさ。

真
コントローラー？

ギターの男 そう、心のね。

真 心の？ これ何に使うの？

ギターの男 その時になれば分かるさ。

真 ……その時？

ギターの男 (ギターを持って) それじゃあ、心の準備はいいかい？

真 え、ああ。(移動して)目を閉じて、自分の心に意識を向けて……。

辺りは暗くなり真だけが浮かび上がる。

ギターの音が聞こえてくる。

真 自分の心に意識を向けて……。

音楽は高まり。

暗転。

四場

風間家。

キャンプ当日の朝。

明転。

英雄と満智子が座っていてリュックがある。

TVの音(犯人の顔は嬉しそうに笑っていました……)

満智子 (TVを消し) ああ、朝から嫌ね。

真がボーっと現れて。

満智子 真、あんたこんなのにのんびりしていて大丈夫なの？

真 え。

満智子 えじゃなくて、友達とキャンプ行くんでしょう今から？

真 うん、行くよ。

満智子 行くよって時間大丈夫なの、待ち合わせしてるんでしょう？

真 うん、してる。

英雄 どこか具合でも悪いのか？

真 ううん、悪くないよ。

英雄 そうか、ならいいけど。

真のスマホにメッセージが入る。

真
満智子
（目を覚まし）あ、やべ忙がなきや。
だから言ってるじゃないもう。

真はリュックを背負って飛び出す。

英雄
満智子
英雄
満智子
ん？（コントローラーに気が付き）おいっこれっ。
（コントローラーを手に取り）何かしらこれ？
さあ、真のdarou。
（真を追って）ちよっと真、忘れ物。

独り座って考え事をしている英雄。

満智子が戻ってくる。

満智子
英雄
英雄
満智子
ちよっとあなた、どうしたのボーっとして
るのかしらねえ。

英雄
満智子
英雄
満智子
どこか具合でも悪いの？
いや、そうじゃなくて、真の事でちよっとな。

英雄
満智子
英雄
満智子
真？ 真がどうかしたんですか？
あいつここ最近何だかおかしくないか？ 何て言うか素っ気ない
と言うか空々しいと言うか。

英雄
満智子
英雄
満智子
ええ確かに、さっきも寝ぼけていると言うよりかは、何だか心こ
こにあらずって感じだったわね。
何か悩み事でもあるのかな？
好きな娘の事でも考えてたのかしらね。

最近はレスリングの練習も休みがちなんだろう？

英雄
満智子
英雄
満智子
（バツが悪そうに）ええ・・・。
昔なら一緒にレスリングの練習をしながら俺と体をぶつけていた
から、真が何を考えているのか何となく分かったもんなのに、（自
分の不自由な体を擦りながら）今はあいつが何を考えているのか
分からない。

英雄
満智子
英雄
満智子
あなた・・・。
心の通じ合わない親子関係ほど虚しいものはない、そう思わない
か。

英雄
満智子
英雄
満智子
心が通じ合わないなんて大袈裟な、真に限ってそんな事は。
そうそんな事は、そんな事はいいって言ったんだ真は。

満智子
英雄

え？

昔はよく俺と一緒に汗を流して大事な時間を共にしたのに、あいつまるでそんな事覚えてないみたいにな……。

満智子

まさかそんな事。

英雄

なあ、俺が入院している時も真はあんだったか？

満智子

あなたが入院している時、そう言えばその頃は私、日々の生活に追われて真と真面に向き合ってた。それでも真はいつも私やあなたの事を気にかけてくれてたわ。

英雄

そうか。

満智子

そう言えば……。

英雄

何だ？

満智子

お金の目処がついた頃から少し変わった様な。

英雄

お金？ そのお金を融通してくれた人ってのは満智子、一体どんな人なんだ？

満智子

この前少し話した通り、ガード下でギター弾いているってだけで詳しくはまだちゃんと聞いてないの。

英雄

……。

満智子

真は大丈夫だって言ってるし、それに今はSNSでもお金配りおじさんって人も居るらしいじゃない。だからそんなに深く考えなくて、まずはあなたが元気になるんだったらって……。

英雄

行こう、今夜。

満智子

え、行くって？

英雄

ガード下の路地へ行ってギターの人にお礼をしないと。

満智子

何も今夜じゃなくて別の日でも、真が居た方が話もしやすいだろうし。

英雄

いやいいんだ、今夜ギターの人に会いに行こう。

満智子

ええ分かったわ、今夜行きましょう。

×

×

×

×

その日の夕暮。

キャンプ場。

山田を先頭にそれぞれ歩いてくる。

一番後ろにはコントローラーに夢中の真。

そして一同ひと休みする。

明日香

(興奮して) 私テントに泊まるの初めて。

奏 あそうなの？

明日香 大丈夫かなあんなペラペラで、扉もないし鍵もついてないし。奏はそういうの平気なの？

奏 そりゃあ都心で扉も鍵も付いてなかったら怖いけど、キャンプってそういうものだし皆もいるから平気よ。

明日香

山田 意外だなあ。

明日香 え？

山田 奏ちゃんより明日香ちゃんの方が物怖じしないたちかと思ってたんだけど、逆だったねえ。

奏 私、子供の頃は家族でよくキャンプに行ってたのでそれになるほど、どおりで要領がいい訳だ。

山田 (笑顔) 明日香？ 何、落ち込んでるの？

明日香 だって私はどうせ要領わるいもん。

山田 いやそんなつもりで言ったんじゃないんだけどなあ……。

奏 そうよそんな事ないし、そんなの気にしなくていいのよ。

明日香 本当に？

山田 ほんとほんと、キャンプは怪我無く充実した時間を過ごせばそれでいいんだよ。

三人の会話を恨めしそうに見ていた小川が、急に会話に入ってきて。

小川 そうだよ明日香ちゃんはいつも通り……

明日香 じゃあ気にしない。山田先輩、次は何をするの？

山田 うん次は食事の用意をするので、女子二人は食材の準備をお願いしてもいいかな。我々男子は火を熾すので。

明日香 分かりました。

小川 包丁で指をきらないように……

山田 じゃあそこ男子二人は山に行って薪を集めて来てもらっていいかな。

小川 え、先輩は行かないんですか？

山田 俺はすぐに火が熾せる様に下準備しとくから。

小川 あ、そうっすか。

山田 あと彼女達が慣れない調理場でケガをしない様についてあげないと。

明日香 山田先輩、優しい。

山田 それじゃあ行こうか。

明日香・奏 はい。

山田、明日香、奏は行く。

小川 何か俺が思ってたのと違う、つまんねえなあキャンプ。

山田が戻って来て。

山田 日が暮れる前に持って来てね、薪。
小川 あ、はい。

山田、去る。

小川 明日香ちゃんがキャンプ楽しんでいるのは良いんだけど、山田先輩
真 山田先輩って俺の事ほったらかしだもんなあ。

小川 ……(大笑い)。
真 ……、人の不幸がそんなに楽しいか？

小川 (コントローラーを片手に笑いながら) いや違うんだって。
真 最低だなお前は。

小川 (笑うが苦しげに)

真 大体お前それ、スマホやめろ！ キャンプに来てまでやる事か？
小川 これスマホじゃなくて、コントローラーなんだよ。(笑う)

真 はあ？ コントローラー？ って笑うなっ！ こっちは怒ってん
小川 だよ、ふざけてんのか。このサイコパスめがっ。

真 うまくコントロールできないんだよ、自分の心が(もう笑っているのか泣いているのか分からない)まるで心の病気になったみたい……。

×

×

×

×

ギターの音FU、電車の音。

夜の高架下。

ギターの男がお客に封筒を渡す。

気分良くそこから去って行くお客。

満智子
英雄

あなた、あの人。
うん。

二人はギターの男の所へ行き。

英雄 あのうち、すみません。

ギターの男 はい。

英雄 ちよっと、お尋ねしたいんですが？

ギターの男 はい。

英雄 ええっと……。

満智子 (英雄に) 私が。この前大学生の男の子にお金を渡しましたか？
父親が病気だから医療費をとって。(写真を見せて) この子なんです
が。

ギターの男 ああ、彼だったら確かに渡しましたよ。親御さん想いのとても良
い青年でした。

満智子 そうですか、(英雄に目をやり) 実は私達の息子なんです。今日は
そのお礼を言いたくてあなたに会いに来ました。

ギターの男 (二人を確認して背を向ける)……。
(頭を下げ) 本当にありがとうございました、お陰で主人もこう
して歩ける様になりました。

英雄 お金は、必ずお返ししますので。

ギターの男 いいえ、その必要はありません。

英雄 しかし、

ギターの男 自分も貰いましたから彼に、心のかけらを……。

満智子 心のかけら？

ギターの男 ええ、そうです。自分は此処で心のかけらを買っているんです、

だからお金は返さなくても大丈夫です。

満智子 そう、なんですか……。

ギターの男 はい。

英雄 ……お金は返しますだから、だから真の心を返して下さい。

ギターの男 ……。

満智子 ……あなた？

英雄 何だかここ最近、真は大切な事を失いかけている様に感じるんで
す。

満智子 真が、大切な事を？

英雄 あなたなら何か知っているんじゃないかと、あなたなら真の心を
元に戻してくれるんじゃないかと……。

ギターの男 ……。

英雄 私は一人の親として子供に何が出来るか、何をすればいいのか、

その事を真剣に考えてきました。真は将来どんな大人になりたい
のか、どんな仕事をしたのか、どんな事をして生きて行きたい
のか……。親バカですよね？

ギターの男 いいえ、そんな事は。

英雄 真本人が社会に出る時に向かうべき所がしっかり見えていれば、

私も満智子も成長していく息子を陰から見守ってやるんですが、今だ未来に霞がかかっていてあるあの子を見てると何だか危なっかしくて、それでなくとも近頃は人の心も世知辛く様々な誘惑が溢れる中、半人前の真が路頭に迷わないか心配なんです。だからせめて何かに躓いても、めげずにまた立ち上げられる強い心と体を持って貰いたかった。

満智子

英雄

あなたそれで・・・
ただ毎日何となく遣り過ごして、何となくフワフワして生きる根無し草の様な人生を送らない様に、そう想って。

満智子

英雄

それでもよかった、強い子に育てばそれで。

ギターの中の男

英雄

強い子？
そう、何かに本気で情熱を注げるものがあって、これだと決めた事は最後まで覚悟を持って遣り遂げる。無心でレスリングに打ち込む事で、本気で物事に取り組む事で、自ずと次やるべき事が見つかると。一緒にやって来たレスリングはそんな強い心を培うきっかけになればと願って・・・。

ギターの中の男

英雄

強い心？
そうですね強い心、それは裏を返せば・・・。

満智子

英雄

それは？
それは優しさなんです。

満智子

英雄

強い心は優しさ。
その優しい心は周りに笑顔を生み、その笑顔は喜びを生み、そしてそれは皆の生きる希望になる、私はそう思うんです。

ギターの中の男

英雄

・・・希望。

人生に目標を持って、生きる希望を持っている人は強い。真には甘い誘惑なんかには負けない信念を持って貰いたかった・・・なのに、それなのにすっかり失くしているんです、その大事な心を・・・。

ギターの中の男

英雄

もう一度笑って、皆で心から笑って明るい明日を、幸せな未来を生きたいんです。

満智子

英雄

私からもお願いします、真の心を返して下さい。
お願いします。

二人は深々と頭を下げる。

満智子

英雄

お願いします。

ギターの中の男

あの子に返してやって下さい、偽りの無い真心を・・・。
・・・（ギターを手にして）

ギターの音。
熱心に頭を下げる二人。
英雄はバランスを崩してよろける。
満智子が英雄を支えてあげる。
音楽は高まり。
暗転。

エピソード

夜のキャンプ場。
山田を囲む様にして皆が座っている。
真は少し離れた所でコントローラーを扱っている。

山田 自然に身を置くとこの事は、つまり今を生きるという事。この奇跡の星地球は、僕たちに呼吸するという当たり前の事を……

大笑いする真だが、どこか苦しそう。
白ける一同。

真

山田

お構いなく、続けてどうぞ。
(気を取り直し) えーっとなんだっけ、あそうそう。だから山は人生みたいなので、道すがら苦しい時があれば心が晴れやかになる時もある。

明日香

奏

なるほど山登りは人生みたいなのかあ……。
山田先輩は山を登る時に気をつけている事とか、何かこだわりみたいなものはあるんですか？

山田

奏

うん良い質問だね、まあいろいろあるけどまずは足元かな。足元？

山田

不安定な山道、裸足だと恐る恐るでしか前へ進めないよね。けどどしっか靴を履いていればどんどん進むことが出来る、何なら駆け上がる事だって出来る。要するに山イコール人生だとしたら、靴はまあお金と同じくらい大切って事かな。

小川

明日香

ん、靴はお金って事？

いやだからそう言ってるじゃん。

皆は楽しそうに笑う。

山田 地に足を着けてないと躓くって事さ、山登りも人生も。
明日香 おお。

それぞれが感心する中。
大笑いする真。

山田 んっ、俺なにか可笑しな事言ってるかな？

一同は顔を横に振る。
真は笑いを耐えつつコントローラーで感情を何とかし
ようと必死。

真 何も可笑しくないです、はい。(笑う)

小川 おいっ真、お前それやめろっていい加減、感じ悪いよ。

真 (泣きながら) 違う、いや違うんだって。

小川 違うって何がだよ、ねえ明日香ちゃん。あそうだ気分転換に星で
も見に行こう星でも。
うん行く行く。

明日香

山田 それなら絶景ポイントがあるから俺についてきなよ。(行く)

明日香 さっすが先輩。

小川 ぶうー、俺は明日香ちゃんが居ればどこでも絶景だけどねえ。

明日香 (行く)

奏も早く早く。(行く)

奏は行きかけるが立ち止まる。

真は独りでコントローラーを弄っている。

真 奏 真くん、大丈夫？

奏 奏ちゃん……。

奏は真の隣に座る。

真 俺、何だか変になっちゃって……、自分で自分の事がよく分か

らなくなっただみみたいなんだ。本当なら今日この山で新鮮な空気に
心洗われて、緑に戯れる野鳥に心躍らせて、皆で困むキャンププ
アイヤーに元気をもらって、奏ちゃん達と一緒に星空を眺めなが
ら未来の自分達の夢や希望を語り合いたかった、なのに……。
それどころか俺、何だか大事なことを忘れてしまった様な気がし
て、とても大事な何かを……。

奏 ……真くん、私留学する事になったんだ。

真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏

え、あそうか。(コントローラーで自分の心を確認して) ああ、良かったね、おめでとう・・・？
ありがとう、これもすべて真くんのお陰だよ。
えそうなの。

あの時真くんが挫けそうな私を心から応援してくれたから、私諦めずにがんばれたんだよ。
ん、うん。(コントローラーで確認しつつ) あいや、俺は別にそんな・・・。
真くん、それ。

え、あ、これ。うん・・・、何か、ご免。
それ、ちよっと貸して。

え、これ？ でも・・・。

(コントローラーを奪い取る)

あっ、俺の、こ、こ・・・。

(コントローラーを見回して) ふーん。

奏がコントローラーを弄ると、
真は笑ったり泣いたりする。

真

奏ちゃん、ちよっと、それは。(息を切らして) 実はそれ、俺の心が入って・・・

奏はコントローラーを遠くへ放り投げる。

うっそおー。

よしっ。

え、え、えっー。

あんな機械ばかり覗き込んでも何も見つからないよ、真くん。

え、でもあれは。

私達の目の前にはこんなに素敵な星空が広がっているのに、下ばかり向いていたら勿体ないよ真くん。
でも。

だって私にそう教えてくれたのは、真くんだよ。

え、俺？

そうだよ、未来は明るい。下を向いていても虹は見つからないって、きつと明るい未来が私達を待っているんだって！

でも、俺、何だかよく分からなくて。

大丈夫。人は誰でも不安になったり淋しくなったり心細くなったりするものだけど、それはずっと続くものじゃない。ほら、皆もそう言ってる。

真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏

真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏

皆？

うん、目を閉じてみて。

え、目を閉じる？

いいから、(後ろから両手で真の目えを覆う)そして耳を澄まして、心を預けてみて。

・

・ ・ ・ ほら、聞こえてこない？

え。

虫の声や鳥の囁き、風で草木が擦れる音や遠くで小川のせせらぐ音。

・ ・ ・ うん、聞こえる。

聞こえるでしょう、この大自然が私達だけに奏でてくれる、オーケストラ。

優しい音色から次第に壮大な音楽になる。

しばらく聞き入る真と奏。

真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏 真 奏

・ ・ ・ 聞こえる、ちゃんと聞こえるよ。虫や鳥や風や空気までもが一つ一つの音になって。

そう、その一つ一つの音が重なり合って、私達の心に語りかけてくる。

心に、語りかけてくる・ ・ ・ 。俺、何で今まで気が付かなかったんだろう、こんな素晴らしい世界がすぐそこにあるって。

みんな知っているんだよ本当は。

みんな知っている？

そう知っている、でも時々知らないふりをするの。

どうして？

それは自分が今どこに居るのか確かめるために。

どこに居るか確かめるため？

あととはどっちに行くかは、自分の心しだい・ ・ ・ 。

自分の、心しだい・ ・ ・ 。

そして真は胸を押さえて倒れ込む。

それを心配する奏。

顔を上げた真は嬉しそう。

真くん？

ああ胸が、胸がドキドキして体が熱い。血が、血液が体中を駆け巡る。

大丈夫、真くん。

奏 真 奏

真

ああそうだ、思い出した。俺、父さんと過ごした大切な時間を思い出した、思い出したよっ奏ちゃん！

真 奏

ああ、（奏を意識してドギマギする）ああ、あともう一つ大事なことを思い出したよ。俺、ああもう心臓がっ、（呼吸が乱れつつ）心がドキドキするっ！（一度大きく深呼吸して）俺、奏ちゃんの事が、好きなんだっ！

真 奏

え？
・・・、うん、知ってる。

真と奏が笑う。

そこへ明日香たちがやって来て二人を冷やかす。
みんな笑顔で楽しそう。

×

×

×

×

満智子と英雄が家に帰ってくる。

英雄は立ち止まり不思議そうに見回す。

満智子

ただいま、あなた何か飲みます？

英雄

・・・

満智子

どうしたんですか、どこか痛むんですか？

英雄

いいや。

満智子

さあ早くこっちへ。

英雄

・・・お邪魔します。

満智子

・・・

満智子は英雄の手を取り二人寄り添う。

キャンプ場では皆の笑顔が溢れている。

真は遠くを見つめている。

—幕—